

【 病院理念 】

私たちは地域の方々に愛され安心して利用できる病院をめざします

【 基本方針 】

1. 地域医療のニーズにこたえる
2. 温もりのある医療サービスを提供する
3. チーム医療の充実を図る

【 子どもから高齢者まですべての方のための精神科病院です 】

くろかわらばん

医療法人 白日会
黒川病院

くろかわらばん第14号

2013.10 発行

前号の「くろかわらばん」では、外来通院されている患者さんをサポートするサービスとして、松井先生がデイケアを紹介してくださいました。今回はもう一つのサービス、訪問看護について紹介します。

例えば、

・初めて入院したが、今後どのようなことに気を付けて生活すればよいかわからない。

・入退院を繰り返しているが外来通院を続け家庭生活を維持したい。

・薬を指示どおりに飲むことができない。

・人とうまく話したり付き合ったりすることが苦手。

・話し相手がいなくてさびしい。

・身の回りの事や家事などがうまくいかない。

・ご家族が患者さんにどのような対応したらよいかわからない。

などの心配や悩みがある方はぜひ相談してみてください。

主治医の立場から申し上げますと、どうしても時間に制限がある診察での患者さんの様子の他に、実際にどのような生活をおくっているかを知ることが、治療上とても大切なことです。また、訪問看護で継続的にケアを行いなが

ら、患者さんの日常生活や症状の変化を把握し、早めに対応することで再発防止に大きく役立つことができると考えます。

また、受診や服薬を継続することや主治医とのコミュニケーションについてもサポートとなるでしょう。

具体的に当院の訪問看護について説明します。

黒川病院に通院中で主治医から利用の指示があった患者さんが利用できます。

現在のカバーエリアは、胎内市、村上市、関川村、新発田市、聖籠町などです。

訪問の回数や費用などについては、スタッフにご相談ください。

多職種（看護師、精神保健福祉士、作業療法士）による訪問体制なのでいろいろなお面からサポート、アドバイスをいたします。

この記事を見て興味がある方は、黒川病院地域生活支援課にぜひご連絡ください。

医師 小熊 千秋



～介護教室の様子をご紹介します～ 【バリデーション】

「くろかわらばん」にて、ご案内しております7月・9月に開催された介護教室「バリデーションについて」と「介護食について」の内容をご紹介します。

当院認知症病棟では、認知症高齢者とのコミュニケーションを通じて感情レベルに訴える技法であるバリデーションを取り入れております。バリデーションには、基本的態度、15のテクニク、理論から成り立っています。

△基本的態度▽

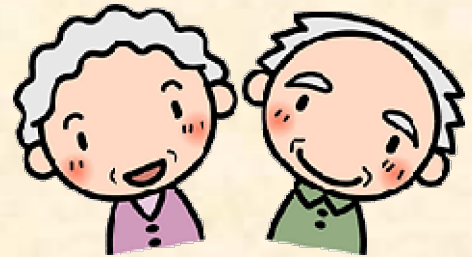
認知症高齢者の声に傾聴する、共感する。
行動には必ず意味がある、自分のものさしで評価をしない
うそをつかない、ごまかさない

△理論▽

エリック・H・エリクソンの発達課題

△15のテクニク▽

- 1 センタリング（精神の集中）
- 2 好きな感覚を用いる
- 3 オープンクエスチョン（開かれた質問）
- 4 リフレージング（反復）
- 5 極端な表現（一番ひどい時、最高な時）
- 6 反対なことを想像する
- 7 レミニシング（昔話をする）
- 8 アイコンタクト（優しいまなざしで見つめる）
- 9 あいまいな表現
（本人しかわからない言葉を使ってあの、それはつきりした優しい低い声で話す）
- 10 タッチング（心をこめてふれる）
- 11 キャリブレーション（感情を観察し一致させる）
- 12 音楽を使う
- 13 ミラーリング
- 14 満たされていない人間的欲求と行動を結び付ける
- 15 1・7・8・10・11・13のテクニクは簡単にできるテクニクです。繰り返し行うことで身につく技法です。



△認知症症状の4つのステージ▽

認知障害（認知の混乱）
認知力はあるが人生に失望しており他人に不安や怒りをぶつける（テクニク1～7）
日時、季節の混乱
今がいつだかわからなくなる（テクニク1～14）
繰り返し動作
同じ動作を繰り返す（テクニク1～15）
植物状態
ほとんどしゃべれず目を閉じている
（テクニク1と8～14）

△テクニクの一部紹介▽

センタリング（精神の集中）
目を閉じへソの下5センチ位の所（丹田）に手を当て鼻から空気をゆっくり吸って丹田のところまでもっていきゆっくり口からはく。
タッチング
頭頂部をなでる父のタッチング
両頬をなでる母のタッチング

7月11日開催

認知症A病棟師長 近藤秋子



家庭介護の食事 高齢者の食を考える

年をとるとともに身体にさまざまな変化が生じ、食生活にも大きな影響をおよぼします。個人差がありますが、高齢者の身体変化にどのようなものがあるか考えてみましょう。

△高齢者は、食に関連するさまざまな機能が低下します▽

- ・ 嚙む力が弱くなる、飲み込む力が衰える
(若い頃の3分の1から4分の1になるといわれています)
- ・ 唾液の分泌が減る
(薬の副作用などで口が渇きやすくなり、食べにくく、飲み込みにくくなります)
- ・ 味覚が衰える
(味覚を感じる味蕾細胞が少なくなり、濃い味を好むようになります)
- ・ 消化・吸収機能の低下
(胸やけ、胃もたれを起こしやすくなります)
- ・ のどの渇きを感じにくくなる
(脱水症状を起こしやすくなります)
- ・ 手足の筋力の低下
- ・ 排泄機能が衰える
(腸の蠕動運動が弱まるため、便秘になりやすくなります)



Check!

嚙む、飲み込む力の低下を示すサインを見逃していないかチェックしてみましょう！左記のような状態があったら、嚙む、飲み込むなど食べる機能の低下が考えられます。
食べ物、食べ方、姿勢など、さまざまな点を配慮してください。

- 食事中にむせる
- 食べ物が出にくい
- 痰が出やすい
- 食事中や食後に咳が出る
- 口の中やのどに食べ物や飲み物が残りやすい
- 食べ物の嗜好が変わった
- 食事の時間が長くなった
- 痩せてきた、体重が減ってきた
- 食事をすると疲れやすい
- 微熱が出やすい、肺炎になったことがある

料理本来の姿や味わいを、
できるだけ生かし、嚙む力、
飲み込む力にに応じた
食事を提供しましょう。



次号から嚙む力、飲み込む力に応じた食の工夫の仕方をご紹介します。

9月5日開催

管理栄養士 小林智美



認知症疾患医療センターから

介護教室のご案内

昨年より黒川病院に通院されている方及びそのご家族を対象に「介護教室」を開催しています。今年も5月から奇数月に開催しております。時間は、午前9時から1時間程度です。外来診察を待っている間を利用し、参加されている方が多いようです。

「介護教室」では、病院内で認知症に関わっているスタッフが講師を務めます。職種を生かし、毎回異なった内容で行っています。参加されている方からは、「自分が抱えている悩みにヒントをもらった」、「話を聞いてもらって、少し楽になった」などの感想も聞かれています。

次回は「口腔ケアについて」です。開催日については、当院待合室にも掲示しております。1月以降の開催日については決まり次第、待合室にて掲示、広報誌にてお知らせいたします。

口腔内ケアについて(歯科衛生士) 11月12日(火)
リハビリテーションについて(作業療法士)
タクティールケアについて(介護福祉士)

お問い合わせ

黒川病院 認知症疾患医療センター

0254 47 2640

外来診療のご案内

診療科：精神科 内科 歯科
診察日：月、金、土(第1第3)
休診日：土日 祝祭日
受付時間：午前8時30分～午前11時まで
診療時間：午前9時から
(診療は午前のみ)

精神科担当医					
月	火	水	木	金	土
宮本 松井 小熊	関野 松井 (稲月)	宮本 小熊 (稲月)	関野 松井	関野 宮本 (稲月) 小熊	関野 宮本 松井
内科担当医					
	吉田				

出張等により変更となる場合がございます。
は第1・第3土曜のみです。

初めての方の予約に関して

午前9時～午後4時まで受け付けを行っております。窓口・担当相談員までお問い合わせください。

医療に関する事や年金、制度の件

お困りの事がございましたら、ご相談も受け付けております。相談員へお問い合わせください。

事務からお願い

月に一度、保険証を窓口へお見せください。変更があった場合は、すぐにご連絡いただきますようお願いいたします。入院されている方の請求書は、毎月中旬までに郵送しておりますので当月末までにお支払いください。ご都合悪い方は窓口へお問い合わせください。

編集後記

猛暑から一気に気温が下がり、秋の装いとなってきました。朝晩冷え込みます。が風邪などひかないようにしましょう。

医療法人白日会 黒川病院
〒959 2805

新潟県胎内市下館字大開1522番地
電話：0254 47 2422
FAX：0254 47 3181
<http://www.hakujitsukai.com>

作成：黒川病院 広報委員会